

ここから(その2～)は、「たまくの計画」を策定するための基礎資料である、多摩区の現状、地域の生活課題に関する調査等や、第6期計画の振り返りを掲載しています。

その 2

たまくを知る



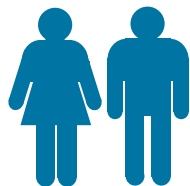
たまくを知る

- 1 多摩区のプロフィール
- 2 統計データから見る多摩区
- 3 多摩区をもっと細かく見てみる(地区の概況)

1 多摩区のプロフィール

多摩区は川崎市の北西部に位置し、高津区・宮前区・麻生区、東京都の世田谷区・狛江市・調布市・稲城市と隣接しています。北部を多摩川が流れ、南部には多摩丘陵が広がっています。地形は、北部の多摩川沿いは平坦な土地が広がっている一方で、南部の丘陵地帯は起伏が激しくなっています。

多摩区基本データ



人口 **216,521** 人

世帯数 **116,838** 世帯

平均年齢 **44.0** 歳
男性 **109,861** 人
女性 **106,660** 人

昼夜間人口比率 **79.1%** 外国人住民人口 **5,246** 人

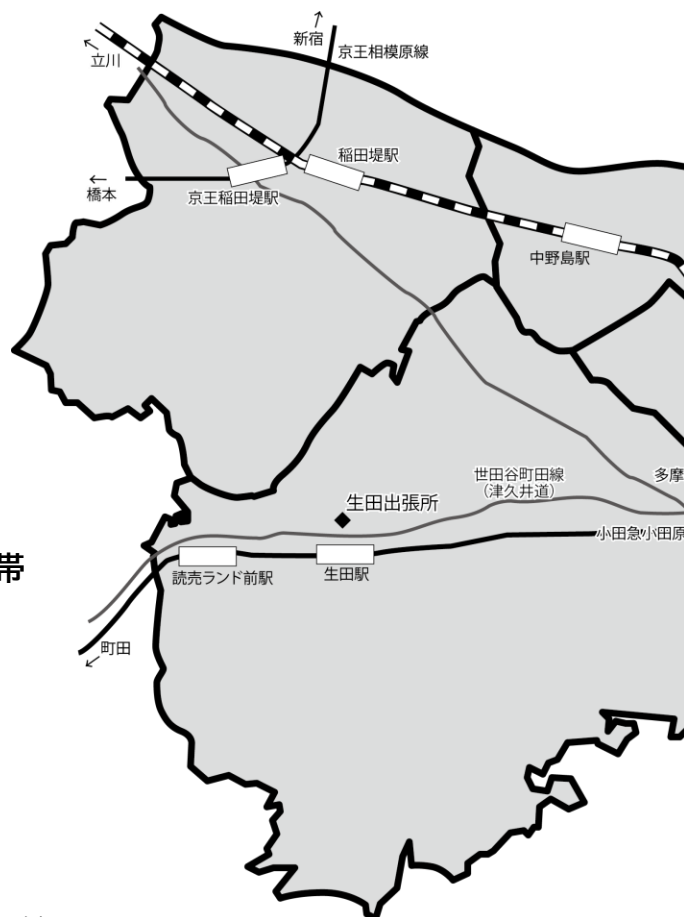
【資料】

人口・平均年齢：川崎市統計情報「町丁別年齢別人口」(令和5年9月末日現在)

世帯数：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」(令和5年9月末日現在)

外国人住民人口：川崎市統計情報「川崎市管区別年齢別外国人住民人口」(令和5年9月末日現在)

昼夜間人口比率：令和2年国勢調査(令和2年10月1日現在)



7区比較で読み解く多摩区

人口増減数(人) **2 位**
(直近5年合計)

1 中原区	10,827
2 多摩区	7,697
3 幸区	5,584
4 宮前区	5,040
5 麻生区	3,501
6 高津区	3,045
7 川崎区	285

資料：川崎市統計情報「川崎市の人口動態」
(平成30年から令和4年の合計値)

出生率(%) **4 位**

1 中原区	9.6
2 幸区	8.7
3 高津区	8.1
4 多摩区	7.7
5 宮前区	7.3
6 麻生区	6.6
7 川崎区	6.0

資料：令和4年版川崎市統計書
「出生・死亡・婚姻・離婚数の推移」
(令和3年1月から12月の出生率)

外国人住民人口(人) **5 位**

1 川崎区	16,962
2 中原区	6,506
3 幸区	5,915
4 高津区	5,653
5 多摩区	5,056
6 宮前区	4,420
7 麻生区	3,280

資料：川崎市統計情報「川崎市管区別年齢別外国人住民人口」
(令和5年3月末日現在)

■多摩区のシンボルマーク

多摩区の頭文字「多」をモチーフに緑豊かな自然環境を表現する二羽の鳥にデザインされ、多摩区制20周年を記念して制定されました。自然との調和の中で、人間らしくのびのびと生活する区民と21世紀へ向け飛躍する多摩区を親しみやすく象徴しています。



多摩区のシンボルマーク

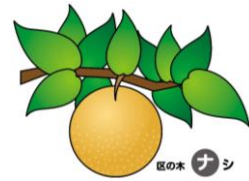


■多摩区の区の木と区の花

昭和47(1972)年に川崎市が政令指定都市に移行し、行政区として多摩区が誕生しました。平成8(1996)年に区民からの公募により「ハナミズキ」「ナシ」が区の木、「モモ」「スミレ」が区の花に制定されました。



区の木 ハナミズキ



区の木 ナシ



区の花 モモ



区の花 スミレ

■区域内の交通

世田谷町田線(津久井道)が区域の中央を東西に横断し、川崎府中線(府中街道)が南北に縦断しています。鉄道はJR南武線(稲田堤駅、中野島駅、登戸駅、宿河原駅)と小田急小田原線(読売ランド前駅、生田駅、向ヶ丘遊園駅、登戸駅)、京王相模原線(京王稲田堤駅)が立地し、都心へのアクセスが良好です。

昼夜間人口
比率(%)

6位

1 川崎区	116.2
2 幸区	95.3
3 中原区	83.3
4 高津区	82.1
5 麻生区	81.3
6 多摩区	79.1
7 宮前区	74.5

資料: 令和2年国勢調査
(令和2年10月1日現在)

年少人口割合(%)
(15歳未満人口)

6位

1 宮前区	13.3
2 幸区	13.2
3 中原区	12.6
4 麻生区	12.4
5 高津区	12.2
6 多摩区	10.7
7 川崎区	10.3

資料: 川崎市統計情報
「町丁別年齢別人口」
(令和5年3月末日現在)

町内会・自治会
加入率(%)

7位

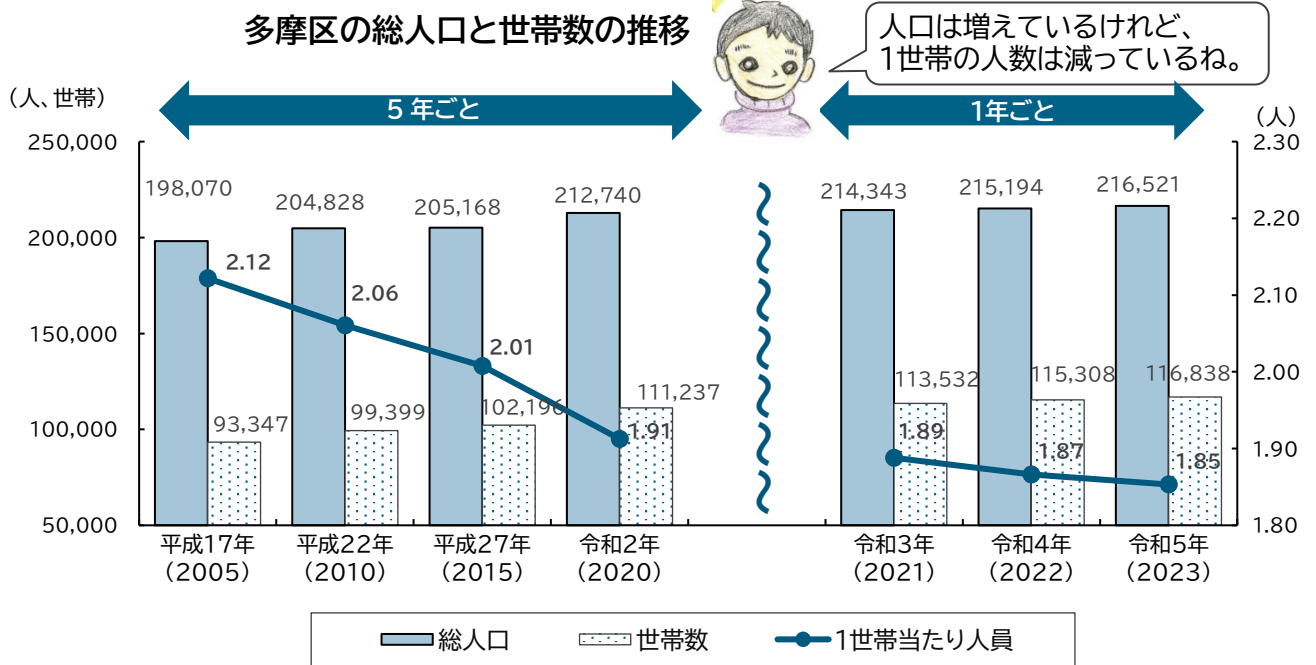
1 幸区	66.4
2 麻生区	61.3
3 中原区	61.2
4 宮前区	58.9
5 高津区	57.5
6 川崎区	52.1
7 多摩区	50.3

資料: 令和4年版川崎市統計書
「住民組織加入状況」
(令和4年4月1日現在)

2 統計データから見る多摩区

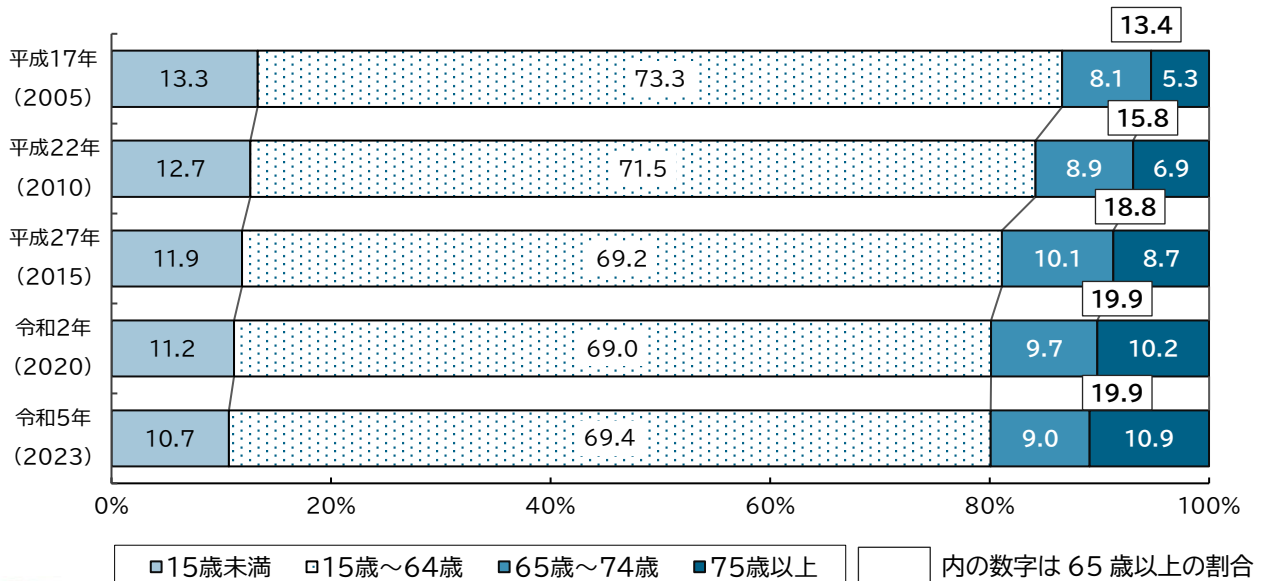
人口

1 人口・世帯数は増加傾向、1世帯当たりの人員は減少傾向



2 年少人口は減少し、高齢者人口の割合が増加傾向

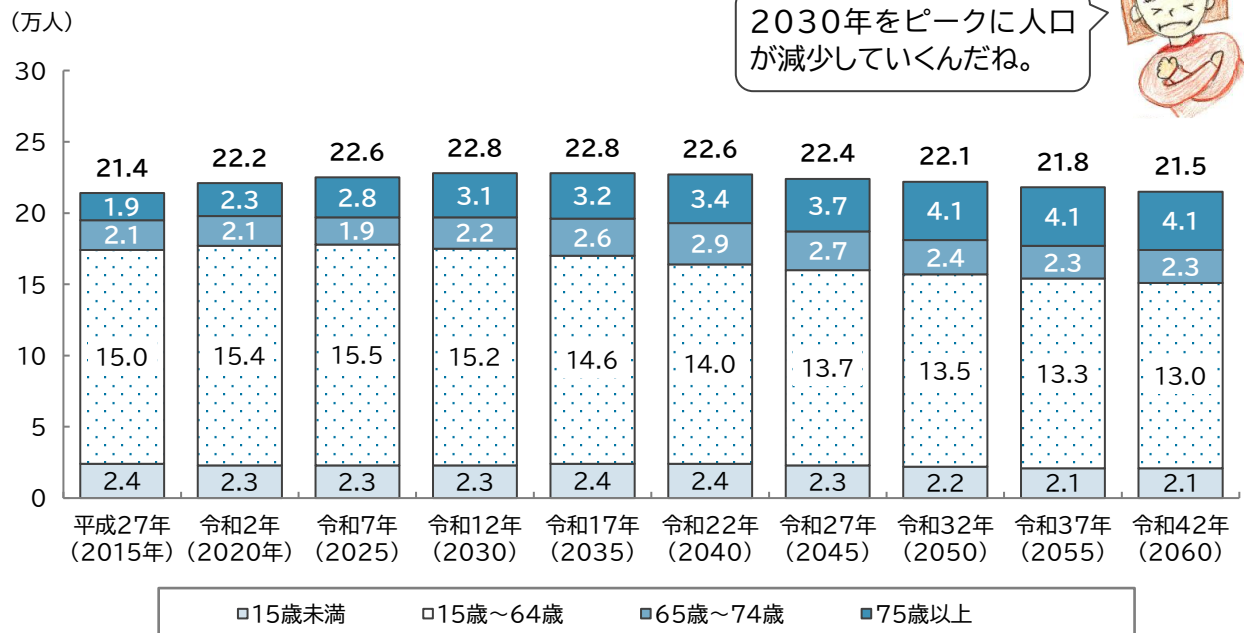
多摩区の年齢区分別人口割合の推移



高齢者の割合が増えているんだね。
今は5人に1人が65歳以上なんだね！

3 総人口は2030年がピーク、75歳以上人口が大幅に増加

多摩区の年齢区分別将来人口推計



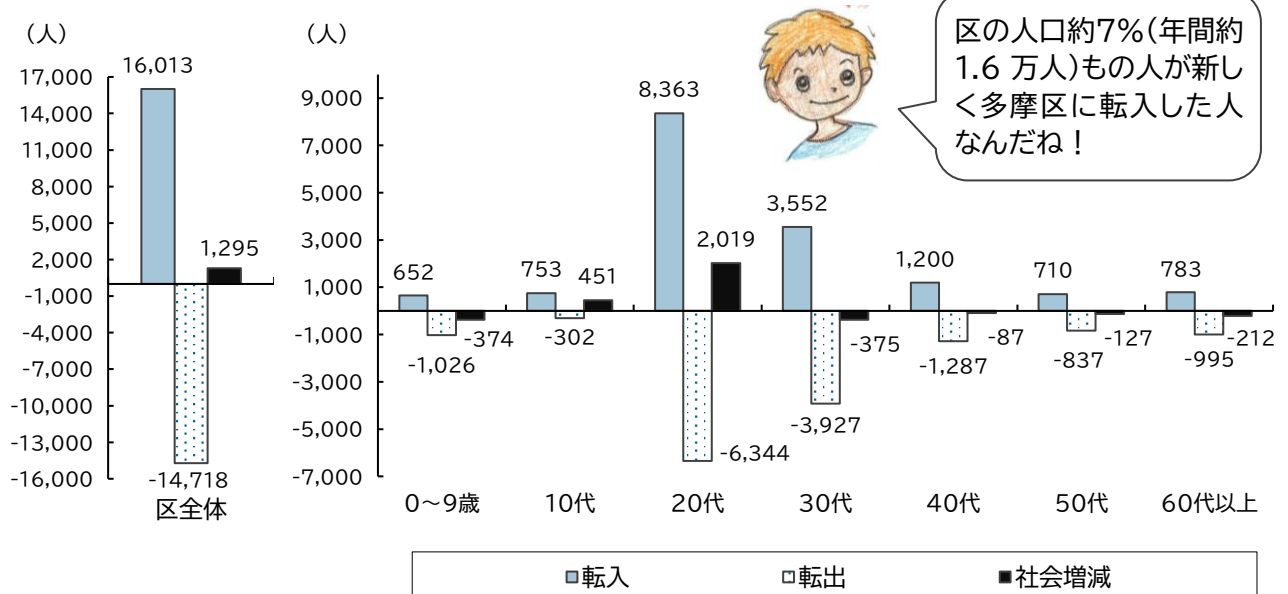
資料:「川崎市総合計画第3期実施計画の策定に向けた将来人口推計(更新版)」(各年10月1日現在)

令和4年2月 川崎市総務企画局

※小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります

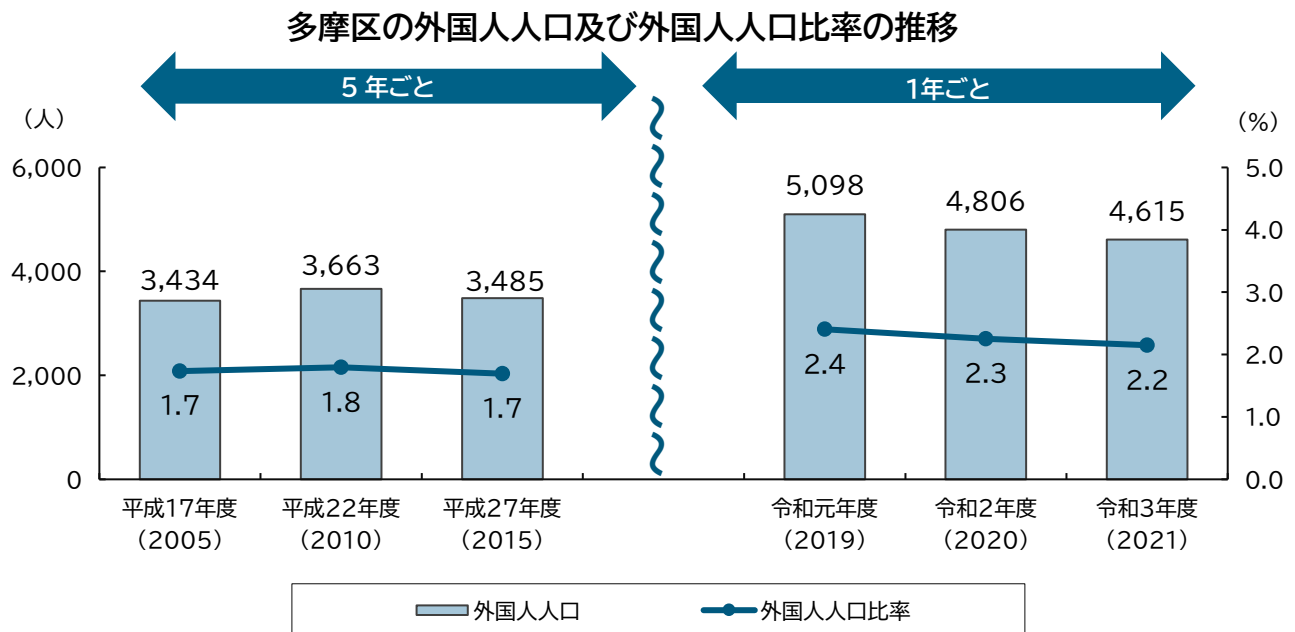
4 20代、30代を中心に転出入が多い

多摩区の転出入の状況



資料:川崎市統計情報「年齢5歳階級別移動人口」(令和4年10月～令和5年9月)

5 外国人人口は減少傾向



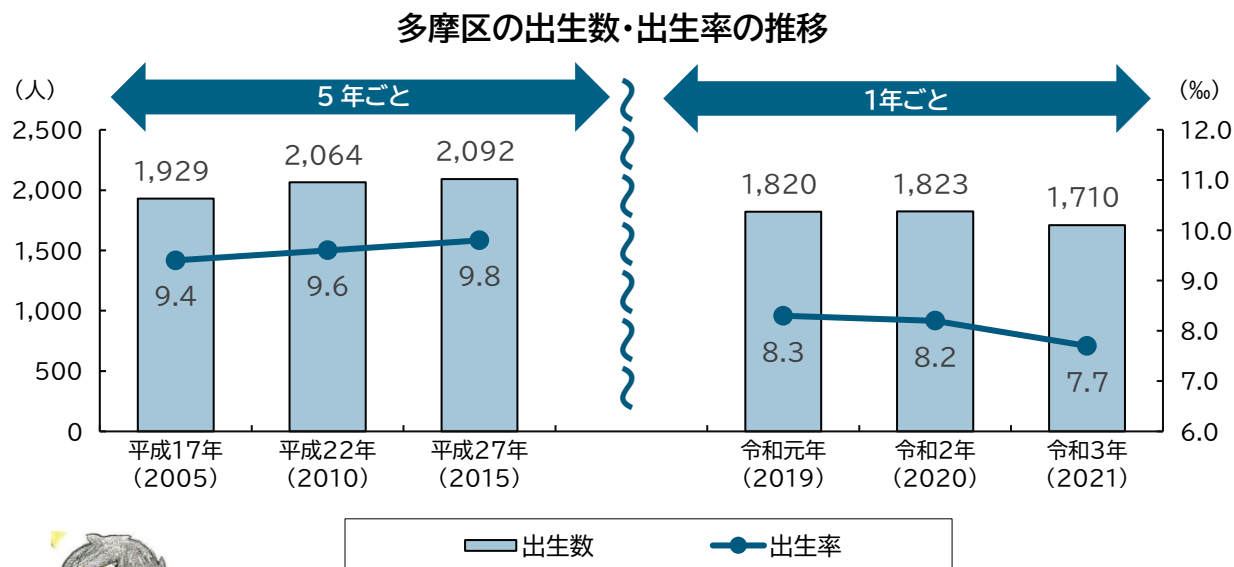
多文化共生のために、お互いの文化を知る必要があるね！



資料：川崎市統計書「外国人住民人口」
(各年度末日現在)

子どもの状況

6 出生率は平成27年から低下傾向



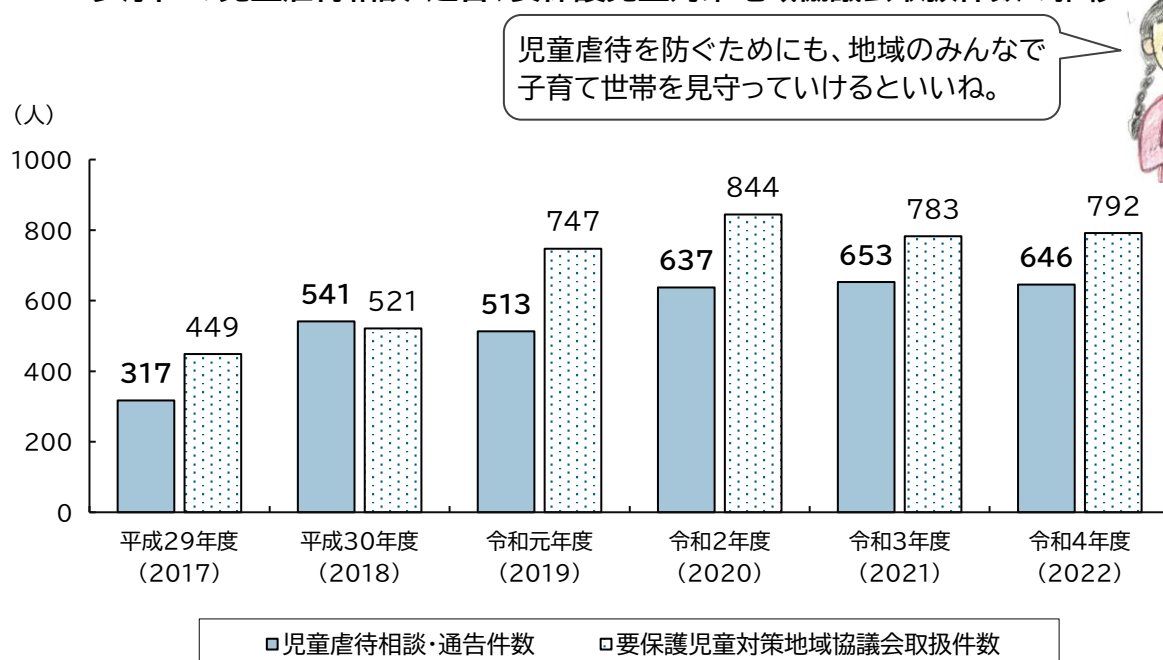
出生数も出生率も下がっているね。

資料：川崎市統計書(各年次)

たまくを知る

7 児童虐待相談・通告件数は増加傾向

多摩区の児童虐待相談・通告、要保護児童対策地域協議会取扱件数の推移

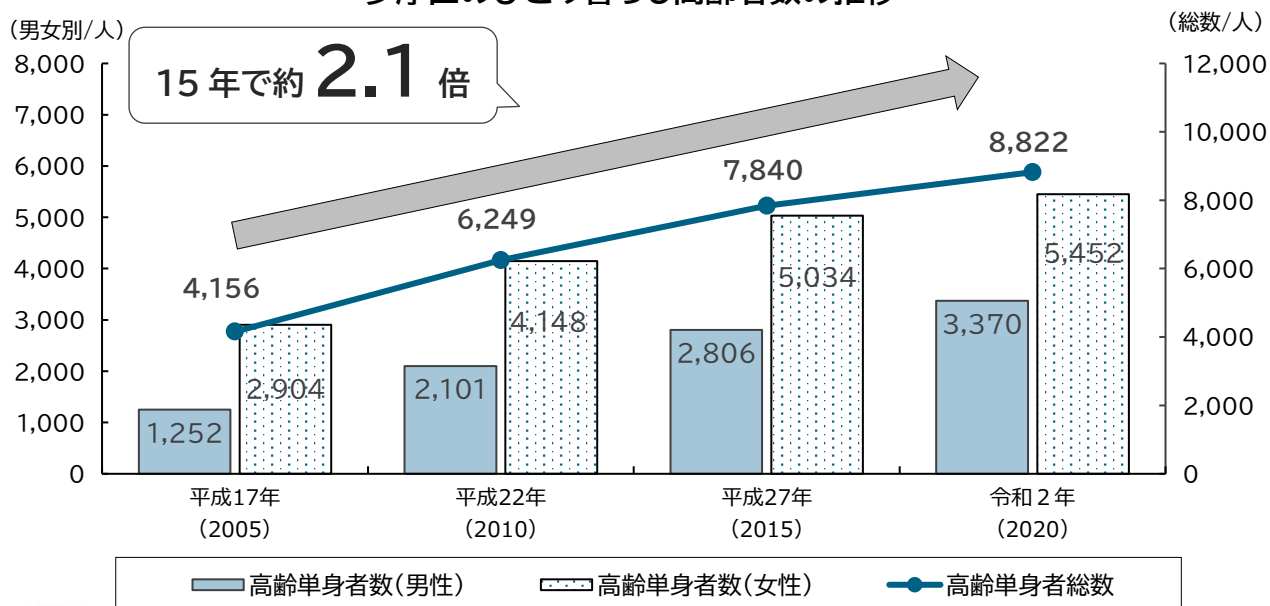


資料：こども未来局「川崎市子どもを虐待から守る条例第21条に基づく年次報告書」(各年度末)

■ 高齢者の状況

8 ひとり暮らし高齢者は男女とも増加傾向

多摩区のひとり暮らし高齢者数の推移

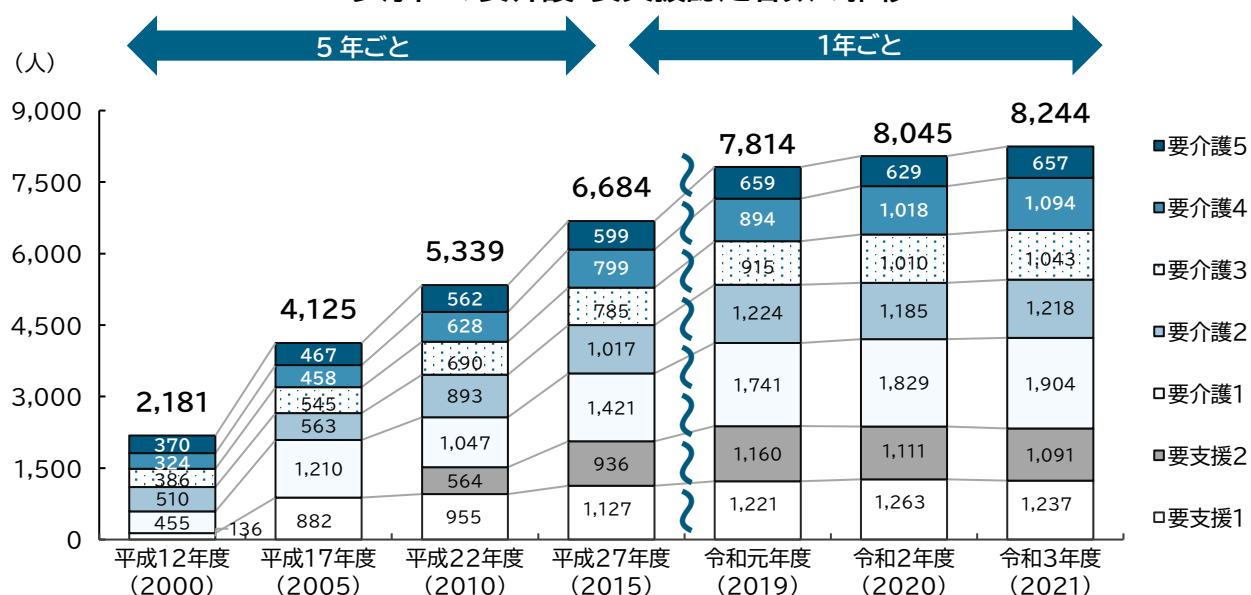


ひとり暮らしの高齢者が
増えているね。

資料:国勢調査(各年10月1日現在)

9 近年では特に要支援者、要介護1・2認定者が増加傾向

多摩区の要介護・要支援認定者数の推移



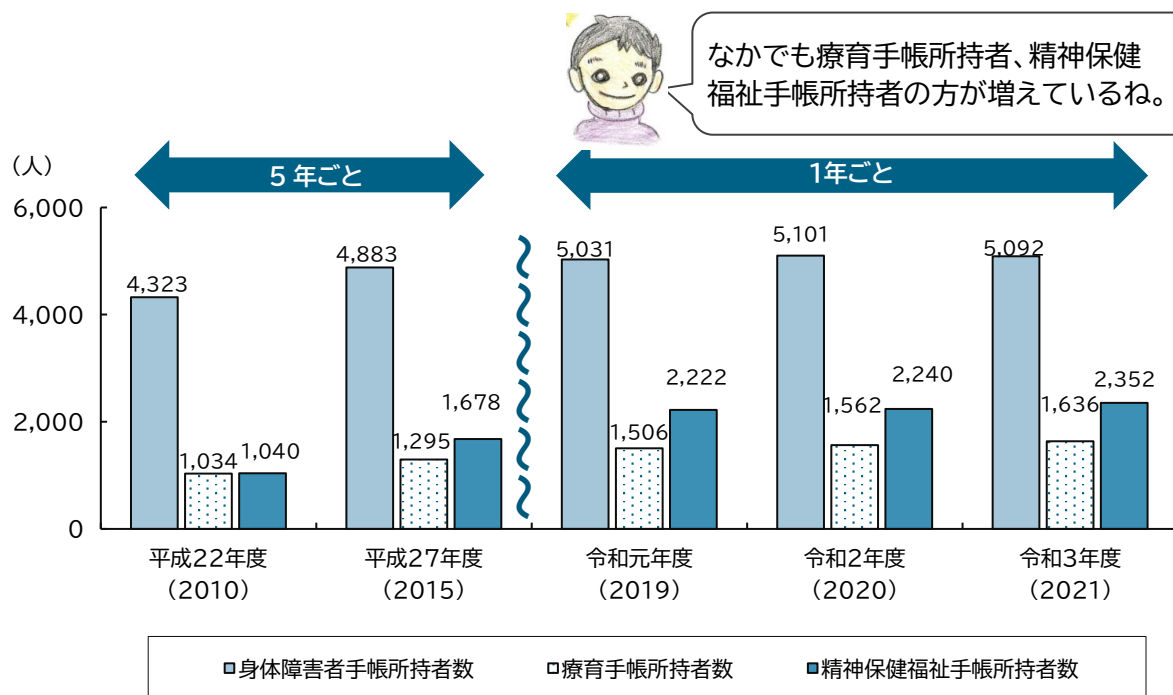
支援や介護の必要な方が
増えているね。

資料:川崎市統計書(各年度末現在。65歳以上)
※ 平成18年4月から「要支援」が「要支援1」に、「要介護1」が
「要支援2」と「要介護1」に改められました

障がい者の状況

10 障害者手帳所持者数はいずれも微増傾向

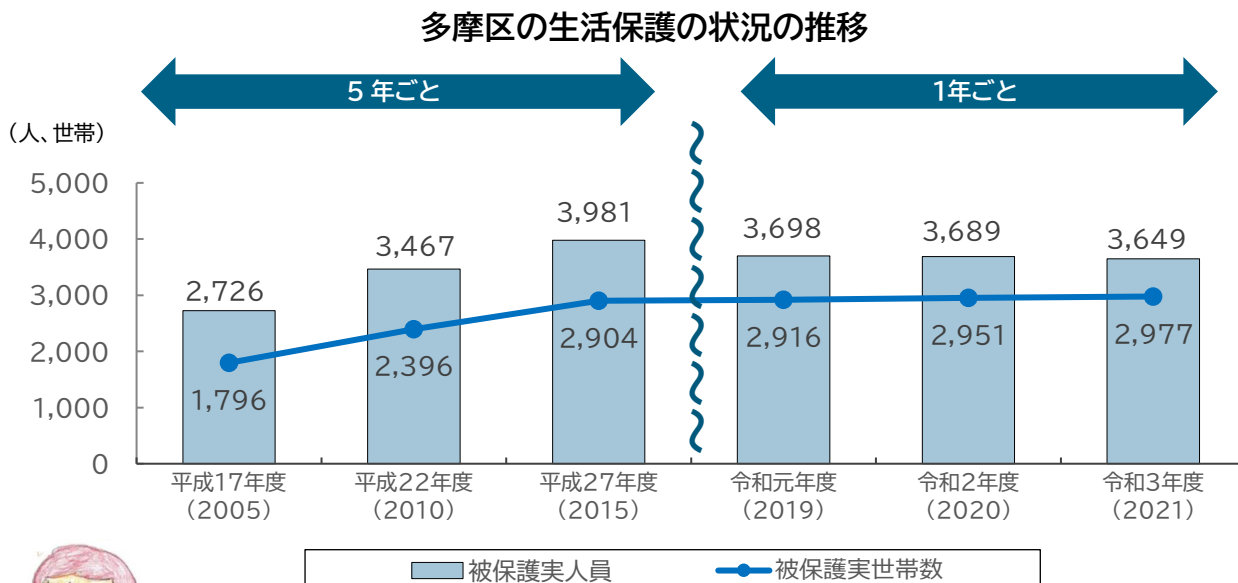
多摩区の障害者手帳所持者数の推移



資料：川崎市健康福祉年報(各年度末)

生活保護の状況

11 生活保護受給世帯数はやや減少傾向



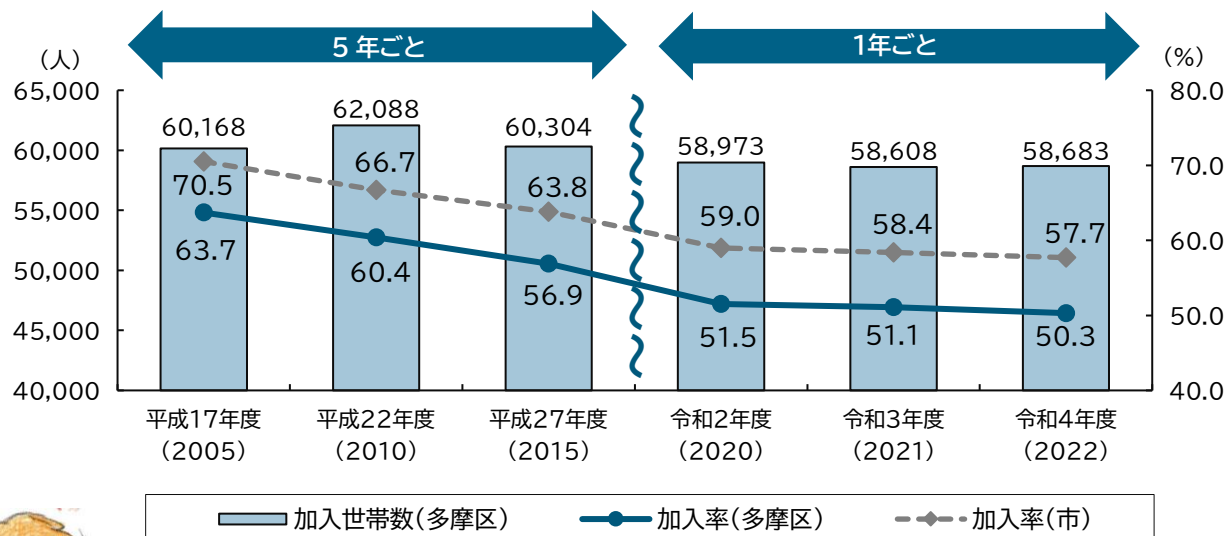
資料：川崎市統計書(各年度月平均。被保護実人員及び実世帯数には保護停止中を含む。)

生活保護を受けている人数は
2015年までは増加して、その
後は徐々に減ってきているね。

地域福祉の状況

12 町内会・自治会加入率は市を下回り、低下傾向が続く

多摩区の町内会・自治会加入状況の推移



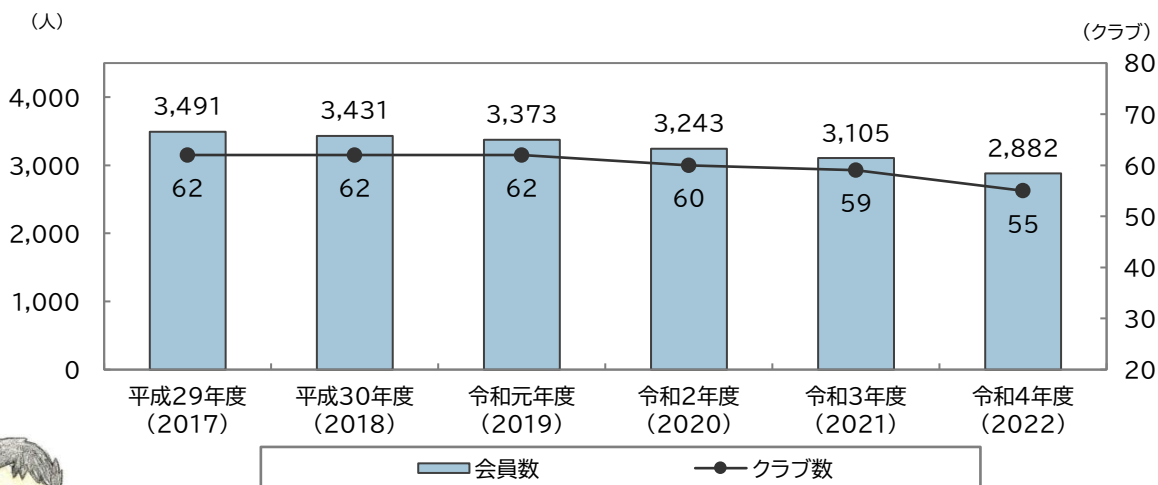
町内会・自治会加入世帯数、加入率は下がってきているんだね。

資料：川崎市統計書「住民組織加入状況」
(各年度4月1日現在)

たまくを知る

13 老人クラブ数も会員数も減少が続く

多摩区の老人クラブの状況



令和2年度からクラブ数が毎年減り続けているね。

資料：川崎市統計書(各年度4月1日現在)

3 多摩区をもっと細かく見てみる(地区の概況)

川崎市では、地域包括ケアシステムの構築に向けて、地区カルテ等を活用した地域マネジメントを一層推進するため、市内を44の圏域に分け「地域ケア圏域」を設定しました。

多摩区では、5つの地区(地域ケア圏域)に分け、地域福祉向上に向けた取組を推進しています。取組を推進していくうえで、人口などの統計データや地域資源、地域活動を地区ごとに整理し、その地区の特徴や課題等をまとめた「地区カルテ」を作成し、地域の課題を広く地域住民と共有し、課題解決に向けた取組を進めるためのツールとして活用しています。

皆さんの住んでいる地域がどのエリアになるのか確認し、どのようなまちをつくってきたいか、共に考えていきましょう。



5つの 地域ケア 圏域 (地区と人口)

登戸	菅	中野島	稲田	生田
29,307 人	44,223 人	23,621 人	43,672 人	75,698 人
和泉、登戸、 登戸新町	菅、菅稲田堤、 菅北浦、菅城下、 菅仙谷、 菅野戸呂、 菅馬場	中野島、布田	宿河原、堰、 長尾	生田、東生田、 東三田、枳形、 栗谷、寺尾台、 長沢、西生田、 三田、南生田

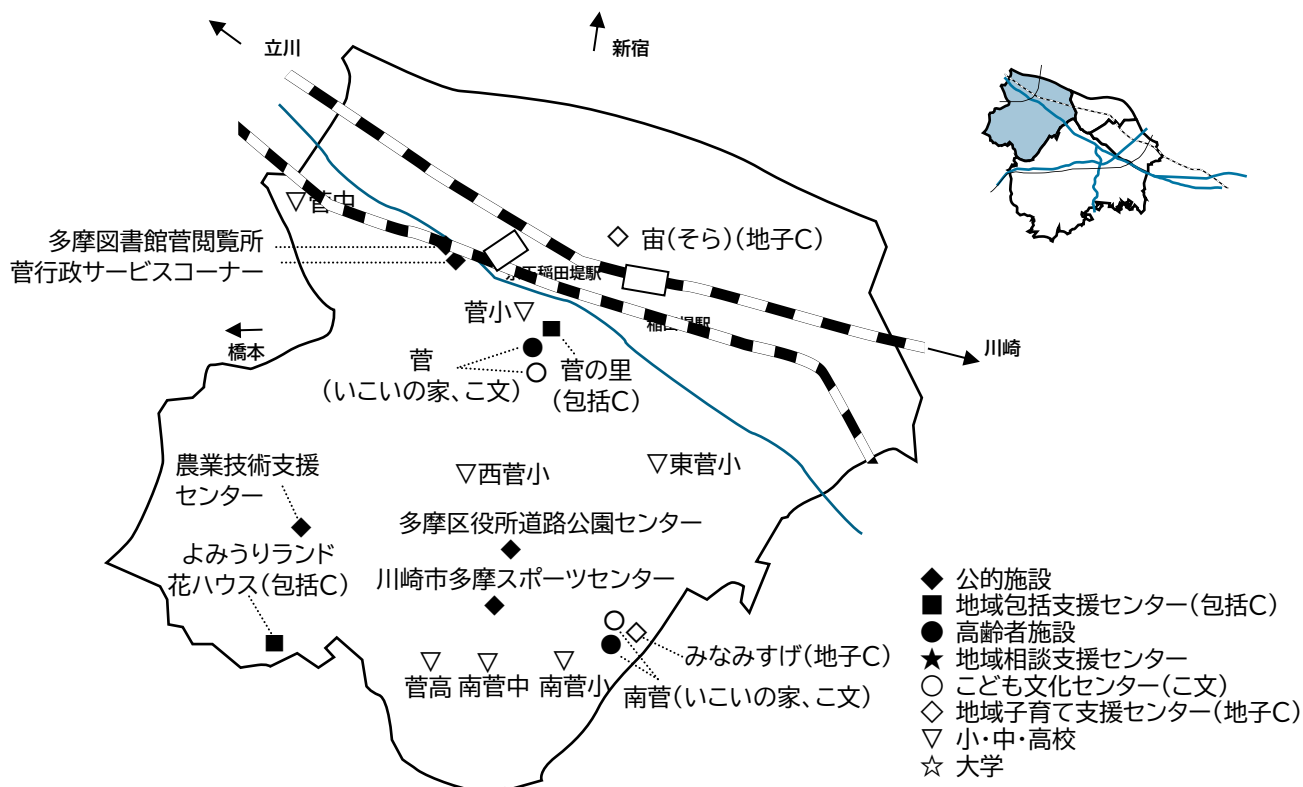
資料：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」(令和5年9月末日現在)

菅地区 地区内の町丁名：菅1～6丁目、菅稲田堤1～3丁目、菅北浦1～5丁目、菅城下、菅仙谷1～4丁目、菅野戸呂、菅馬場1～4丁目

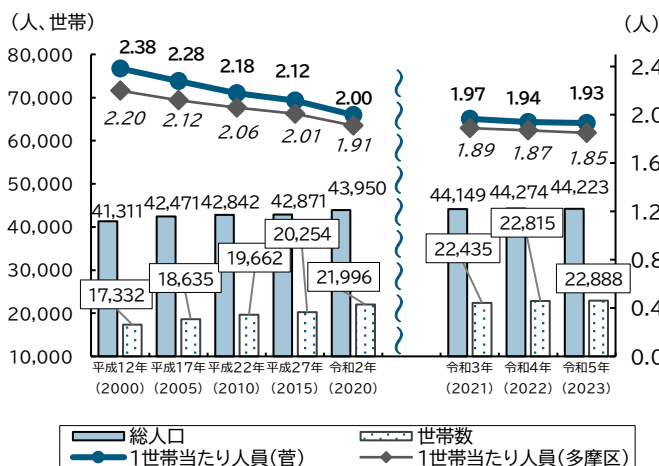
■ 地区データ、地域資源マップ

人口	44,223人	0～14歳人口	4,805人
世帯数	22,888世帯	15～64歳人口	30,534人
高齢化率(65歳以上)	20.1%	65歳以上人口	8,884人

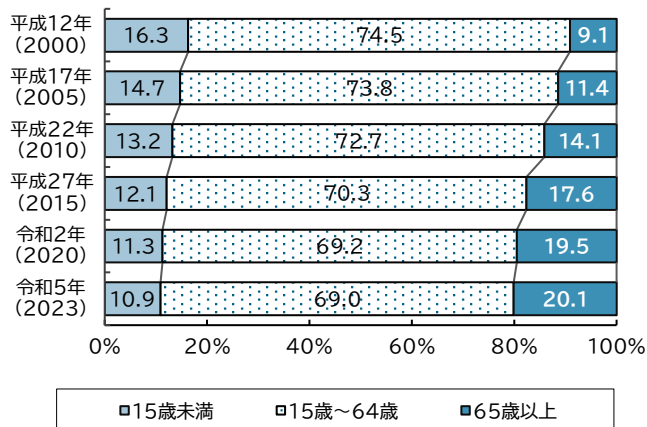
(令和5年9月末現在)



菅地区の総人口と世帯数の推移



年齢別人口割合の推移



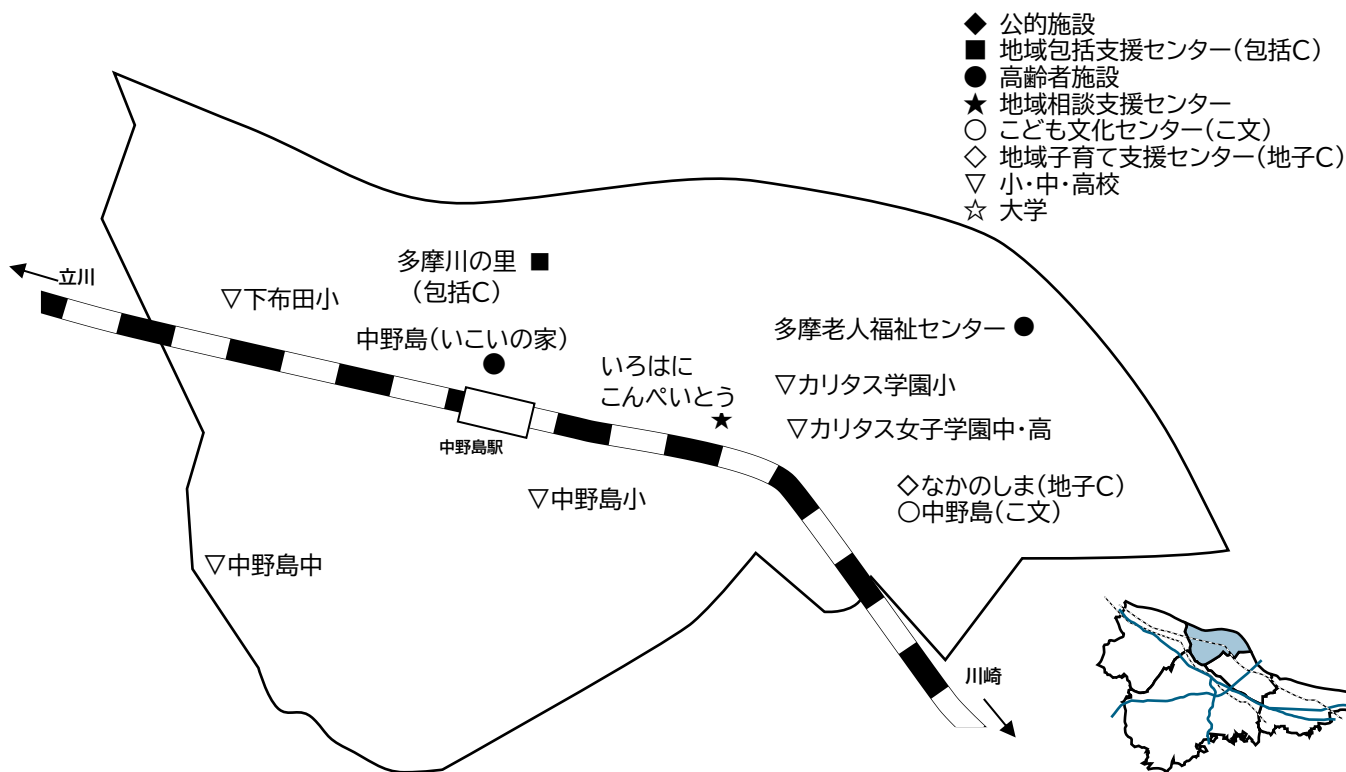
資料：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」「町丁別年齢別人口」(各年9月末日現在)

中野島地区 地区内の町丁名：中野島、中野島1～6丁目、布田

■ 地区データ、地域資源マップ

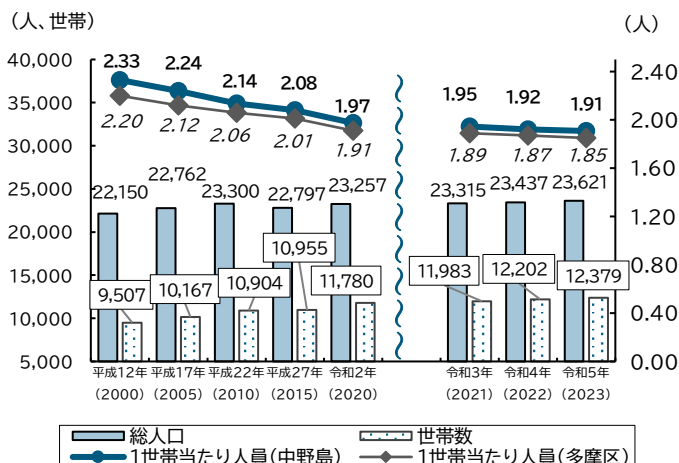
人口	23,621人	0～14歳人口	2,422人
世帯数	12,379世帯	15～64歳人口	15,695人
高齢化率(65歳以上)	23.3%	65歳以上人口	5,504人

(令和5年9月末現在)

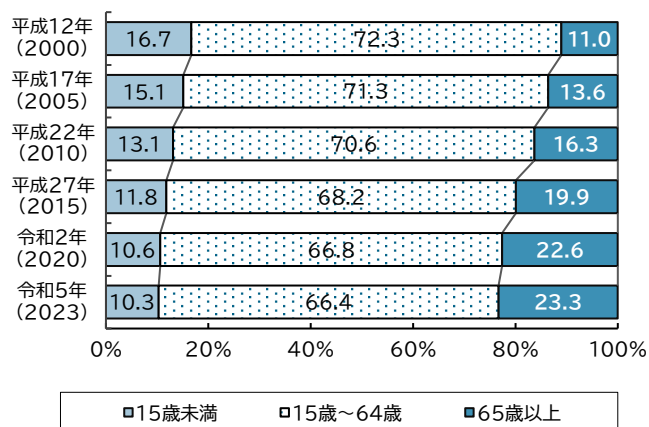


たまくを知る

中野島地区の総人口と世帯数の推移



年齢別人口割合の推移



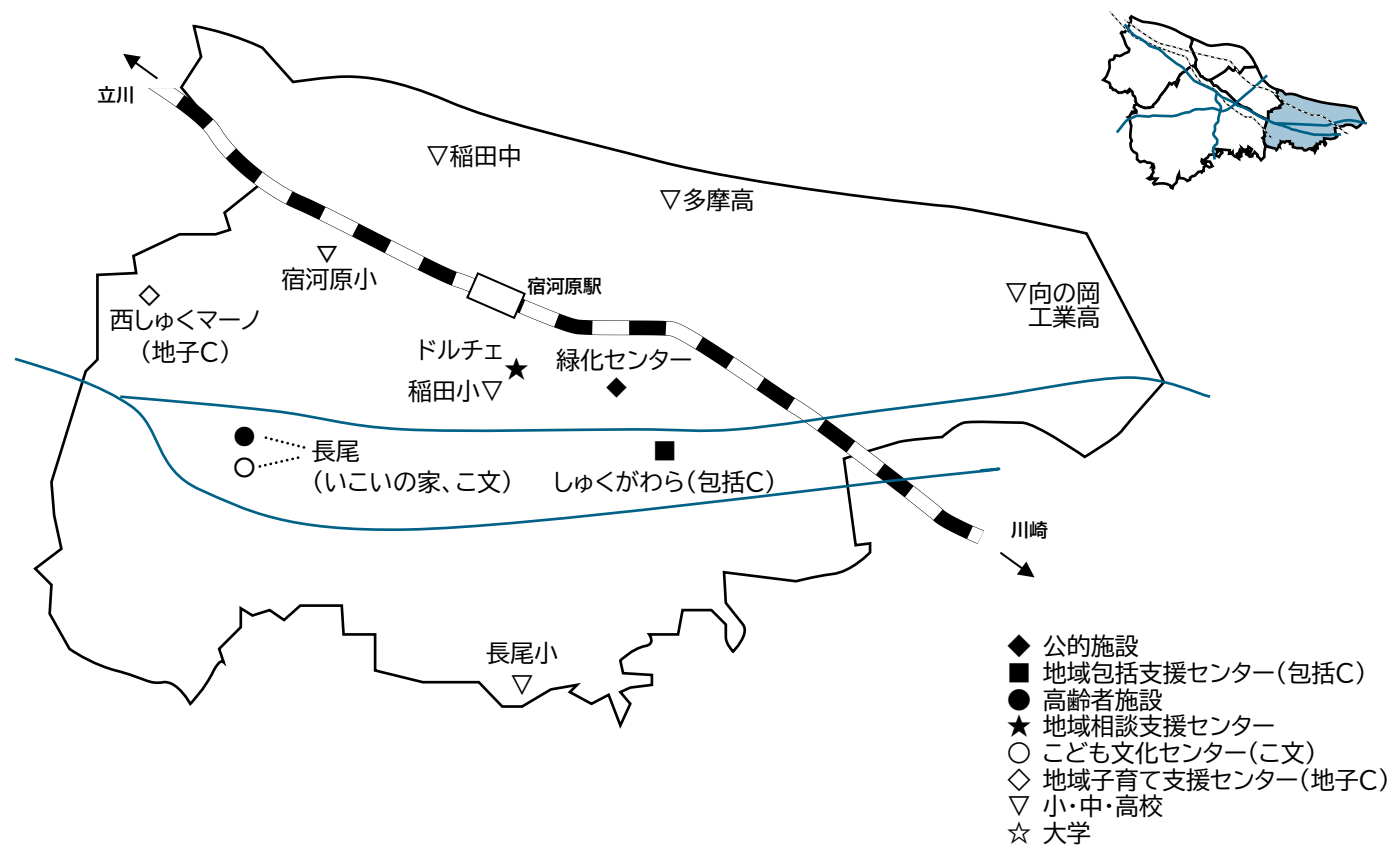
資料：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」「町丁別年齢別人口」
(各年9末日現在)

稲田地区 地区内の町丁名：宿河原1～7丁目、堰1～3丁目、長尾1～7丁目

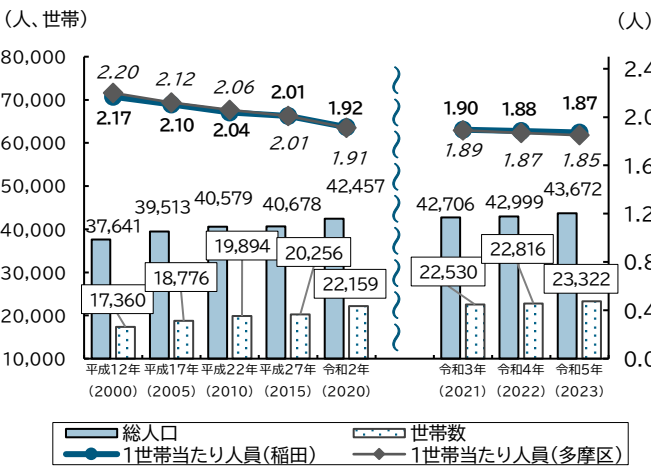
■ 地区データ、地域資源マップ

人口	43,672人	0～14歳人口	4,960人
世帯数	23,322世帯	15～64歳人口	30,380人
高齢化率(65歳以上)	19.1%	65歳以上人口	8,332人

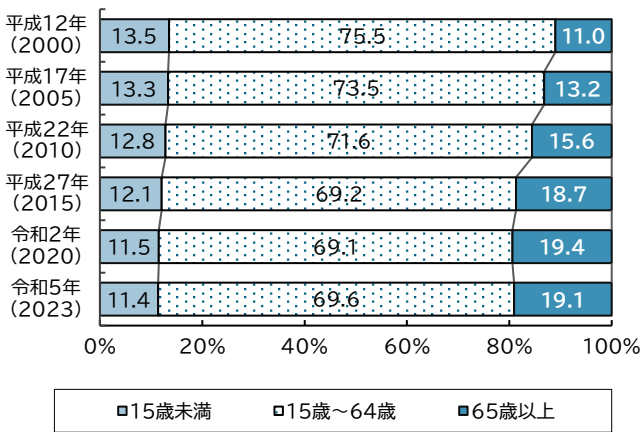
(令和5年9月末現在)



稲田地区の総人口と世帯数の推移



年齢別人口割合の推移



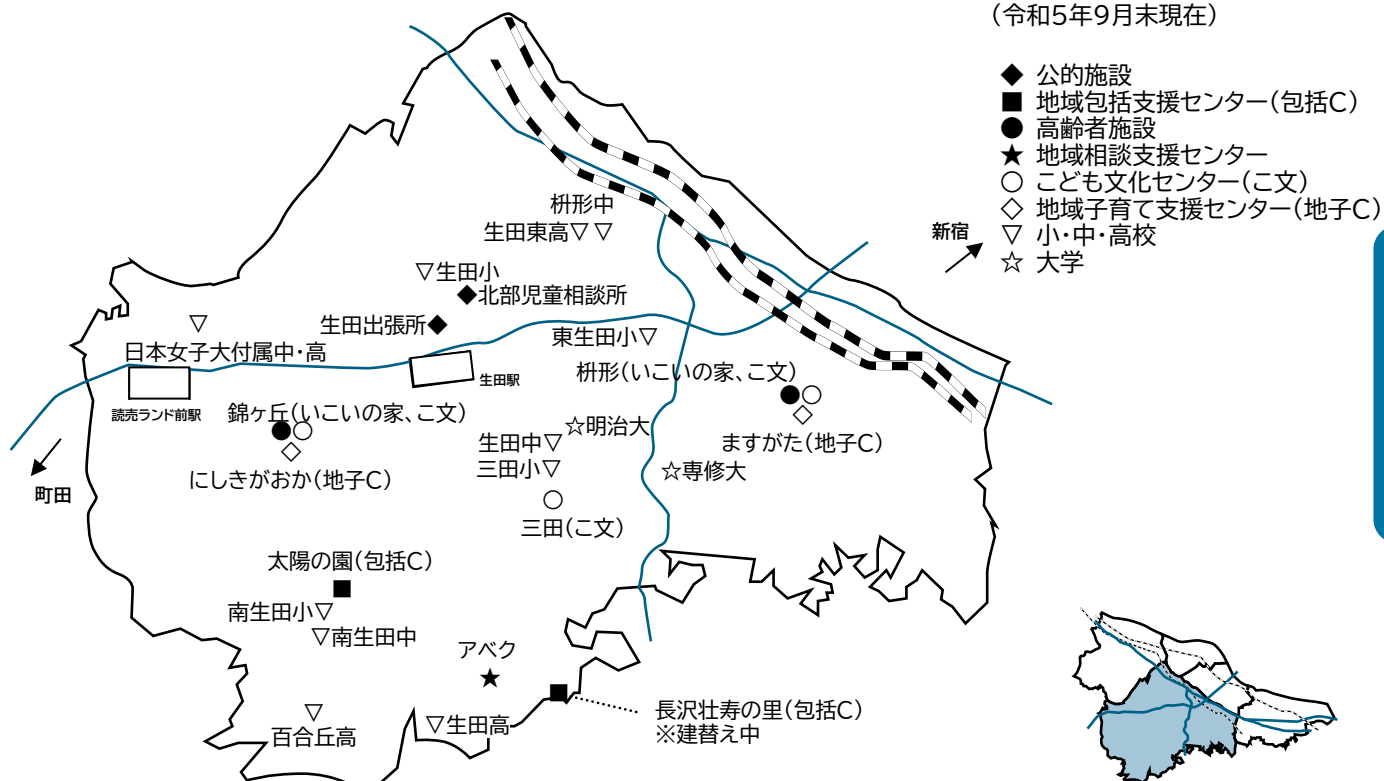
資料：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」「町丁別年齢別人口」
(各年9末日現在)

生田地区 地区内の町丁名 : 生田1～8丁目、東生田1～4丁目、東三田 1～3丁目、
 枅形1～7丁目、栗谷1～4丁目、寺尾台1～2丁目、
 長沢1～4丁目、西生田1～5丁目、三田1～5丁目、
 南生田1～8丁目

■ 地区データ、地域資源マップ

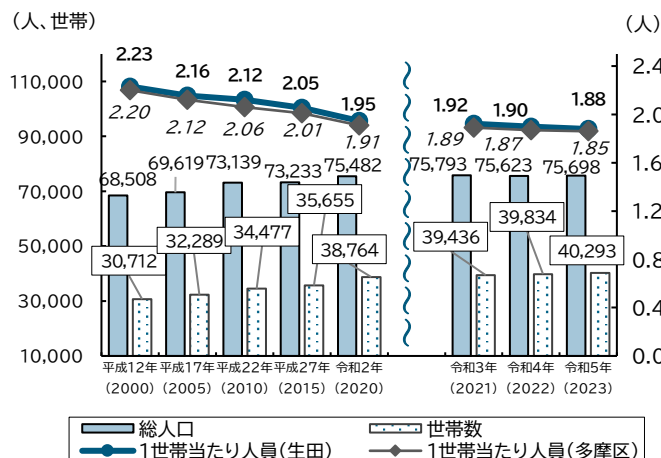
人口	75,698人	0～14歳人口	8,095人
世帯数	40,293世帯	15～64歳人口	51,353人
高齢化率(65歳以上)	21.5%	65歳以上人口	16,250人

(令和5年9月末現在)

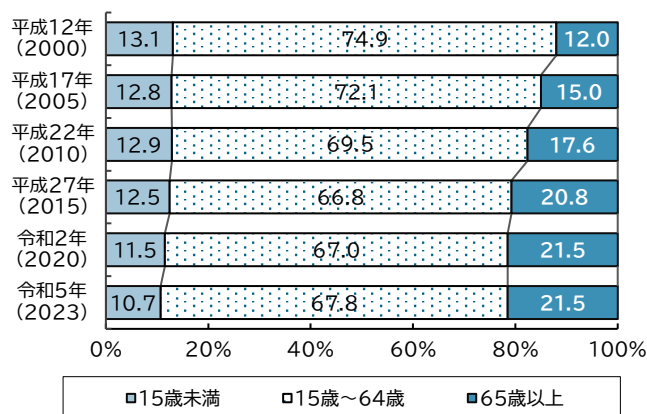


たまくを知る

生田地区の総人口と世帯数の推移



年齢別人口割合の推移



資料: 川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」「町丁別年齢別人口」
 (各年9月末日現在)

05 生田緑地で開催される「全国都市緑化かわさきフェア」の取組

～みどりで、つなげる。みんなが、つながる。～

「全国都市緑化かわさきフェア(かわさきフェア)」は、みどりがもたらす快適で豊かな暮らしがあるまちづくりを進めるため、昭和 58(1983)年から毎年、全国各地で開催されている「花と緑の祭典」です。

川崎市は令和6(2024)年7月1日に市制100周年を迎えます。これまでの歴史や資源、強みなどを振り返り、次の100年に向けて、みどりについて皆さんと一緒に考え行動することで、誰もが暮らしやすく住み続けたいまちへとつなげていくため開催します。

【開催期間】

令和6年10月19日(土)～11月17日(日)

令和7年3月22日(土)～4月13日(日)

【会場】

生田緑地、富士見公園、等々力緑地、まちなかみどりスポットなど市内全域



生田緑地・エリアのコンセプト「歴史・文化」× みどり

東口～日本民家園～中央広場
タケを活用した空間演出と資源の活用発信



生田緑地ばら苑
ばら苑の歴史を紐解きながら、新たなばら苑の魅力づくりを市民協働によりチャレンジ



メタセコイア林～岡本太郎美術館～西口広場
緑地の資源を活用し、自然を感じ、楽しむ体験の展開



中央広場～かわさき宙と緑の科学館
生田緑地の誇る自然資源と市民活動の発信



- コア会場(生田緑地)
- 花の装飾
- メインルート
- イベントスペース

出展「全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画」

かわさきフェア会場の1つ「まちなかみどりスポット」(多摩区での取組)

区内の様々なみどりとオープンスペース(例:川崎市緑化センター、稲田公園、多摩川緑地、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺)を活用し、日常の活動や取組をかわさきフェアを通じて発信し、かわさきフェアを盛り上げる一体感を醸成します。また、まちなかみどりスポットそれぞれをつなぐ取組として、身近なみどりを知り、楽しみながら回遊できる仕掛けを実施します。



【地域住民による花壇づくり】



川崎市地域包括ケアシステム
広報キャラクター
あいちゃん

地域包括ケアシステムを略して

『地ケア』

川崎市では、子どもから高齢者まで、
誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていけるように、
地域でのつながりや支え合いの仕組みづくり
(「地域包括ケアシステム」略して「地ケア」)を進めています。

生きがいづくりや健康づくり、介護予防などの「自分自身のケア(自助)」と
周りの人同士の助け合い、町内会・自治会活動、ボランティア活動などの
「みんなの支え合い(互助)」を一人ひとりが進めていくことが第一歩です。

多摩区では、地域の方が取り組まれている
様々な自助・互助の取組を紹介する
「川崎市多摩区地域包括ケアシステム広報誌 地ケア TAMA」を
発行しています。

本計画のコラムとして、
「川崎市多摩区地域包括ケアシステム広報誌 地ケア TAMA」に
掲載した取組を紹介させていただきます。

※掲載内容やインタビュー者の肩書等は、発行当時のものです。

【子ども・子育て】



多摩区でプレーパークを やっちゃおう会 (略称:たまプレ)



Play park



「子どもたちにとって大事な、“遊び場”をつくりたい。」その思いで平成16年に発足

平成15年に多摩区で子育て中のお母さんを対象に、子どもの遊びの重要性を学ぶ講座が開講され、参加した有志のメンバーが、「子どもたちにとって遊び場が大事」、「子どもたちの遊びの環境を保障していきたい」という思いから、翌年2月に「多摩区でプレーパークをやっちゃおう会(以下たまプレ)」を発足させました。

日本でも批准された「子どもの権利条約」の考えも踏まえながら、“子どもが自分らしくいられる場所”である遊び場の保障と、子育てに関する悩みを聞くなど、子どもにとって一番の環境である保護者のサポートを同時に行いながら、開催回数を増やして少しずつ内容を充実させてきました。



安心してチャレンジでき、
失敗もできる場所でありたい

現在、たまプレは中野島中央公園で月に5～6回遊び場を開いています。このほか三田・生田・宿河原、堰にも地域のお父さん、お母さんたちによる遊び場が広がっています。集まるのは主に小学生で、幼児の親子、さらには高齢者の方もみえて、20～30名が遊んでいます。誰でも来たいときに来て、帰りたいときに帰れます。遊び方は、毎回そのときのフィーリングで、木工やロープ、編み物などさまざまな遊びの素材、道具があるので「今日はどうする?」と質問して子どもたちが決めています。

たまプレは“子どもも大人も安心してチャレンジでき、失敗もできる場所”です。

また、保護者同士の交流の場、高齢者の方が子どもとふれあい、元気をもらえる場にもなっています。



「自分らしく、ありのままでもいい。それが遊び場。」



遊び場のネットワークをつくり
プレーパークをもっと増やしたい

子どもたちの「また来たい!」という笑顔やお母さんたちの「親ではなかなかさせてあげられない遊びや体験ができる」、「もっとこの場を早く知りたかった」という声が活動の原動力です。自分らしくありのままでいい、やりたいことを思いっきりできる場所は、私自身が欲しい場所でもあります。

今後は、活動の継続と同時に、市内の遊び場を開催しているグループとのネットワークをつくり、情報交換や遊び場をもっと増やしていく動きにつなげたいです。小さな公園の片隅でもいいので、小学校区に1つプレーパークができればいいと思っています。また、子育てを終えた後も遊び場の運営に参加してもらえ、次世代の遊び場を担っていくスタッフも育てていきたいです。

“自分は自分で大丈夫”
その肯定感が
生きるチカラになる。
そう感じられる遊び場を
もっと増やしたいです。



たまプレ▲
LINE公式
アカウント

稲田光世
代表



遊びに来てみませんか?

予約や申し込み不要!時間内の出入り自由。たまプレは子どもたちが自由にのびのびと遊ぶ遊び場です。虫取り・水遊び・木工・ペーゴマ・季節の工作...遊びのきっかけ用意しています!

*「すいたま〜」: 毎週水曜日 15～17時

*「どったま〜」: 毎月第4土曜日 13～17時

いずれも 場所: 中野島中央公園
(祝祭日・悪天候・猛暑日・お正月を除く)

そのほかの遊び場については

多摩区 外遊び

検索



詳細はHP▲



多摩区子ども会連合会



Federation of children's association



地域と子どもたちがつながる 多彩なイベントを実施

川崎市は全国的に見ても子ども会の活動が盛んです。多摩区子ども会では5つの地域ごとの活動のほか、区や市のイベント参加など、様々な活動を行っています。町内会などと連携し、地域に根ざしたイベントも多く、地域と子どもたちのつながりの場としても機能していると感じています。

コロナ禍で行動制限が伴う時期ですが、工夫を重ねて交流の機会を減らさないようにしています。子どもと大人のアイデアで乗り切っていきたいです。



子どもたちの
好奇心を引き出し、
健やかに成長していく
姿を見守っています



川崎市子ども会連盟副連盟長
多摩区子ども会連合会会長
大津博之さん

子ども会の活動に参加しませんか？

子ども会は多摩区に住んでいる18歳までの子どもなら誰でも参加可能です。加入後も、どんなイベントに参加するかは自由です。興味のあるテーマからはじめて、地域との繋がりを広げてみませんか？ 子どもたちをサポートする18歳以上の指導者、リーダーの参加もお待ちしております。

連絡先：多摩区子ども会連合会 大津博之会長
☎ 044-900-2483 HPはこちら▶



自由に遊び、多様な経験をすることで自主性が育つ



子どもたちの成長を 地域で見守り、支えていく

時代や社会が変化していくのと同じように、子どもたちの暮らす環境も変わりつつありますが、子ども会の役割の根底にあるものは、設立以来一貫しています。それは、「家庭と学校の間にある組織として、地域で子どもたちを育て、見守り、支えていく」ことです。様々な遊びやイベント、世代を越えた交流を通じて、子どもたちの健全な心身の育成をサポートできる環境をつくり続けていきたいです。

「子どもたちによる子ども会」であることを大切に、私たち大人はあくまでもバックアップする立場です。小さな子どもたちが、リーダーシップをとって活躍するお兄さんやお姉さんに憧れ、先輩たちのようになりたいと自主的に成長していく、そんな関係を築いてほしいと思います。



様々な経験が 可能性を広げるきっかけに

野球大会をはじめとするスポーツ活動、キャンプなどの野外活動、社会見学、文化や伝統芸能に関するイベントなど、子どもたちが自分の興味がある活動に参加できるよう、幅広い活動をしています。中でも羽根つき大会は、川崎市が日本で唯一公式ルールを定めて行っている珍しいイベントです。

また、多摩消防署と連携して、小学校高学年の選抜会員からなる「多摩地区少年消防クラブ」を結成し、消防署の訓練体験や防災施設の見学などを実施しています。防災意識を高める機会となり、いざというときに対応できる力が育まれています。

ジャンルにとらわれず、様々な経験をしてもらうことで、そこからどんな才能が輝くか見守りながら、子どもたちの可能性を広げていきたいと思っています。





カフェを利用した子ども食堂の様子

多摩区ソーシャルデザインセンター(多摩SDC)

子ども食堂



Children's cafeteria



区役所内での子ども食堂の様子



子ども食堂を通じて
住民同士の交流を

「この子ども食堂が、子育て世代の交流の機会や、大学生をはじめとする若者たちの地域参加のきっかけになれば」との思いから、2020年に運営を始めました。

川崎市には様々な理念で運営している子ども食堂があります。その中で私たち多摩区ソーシャルデザインセンター(多摩SDC)では、“地域の課題を解決するための中間支援を行う組織”という強みを生かした子ども食堂をオープンしています。



誰もが気軽に集まれる
地域の食卓としての役割

地域に暮らす人たちの助け合いのシステム、その入口としてこの子ども食堂があります。こうした場があることによって、小さな子どもを持つ保護者たちが、子育ての悩みの相談や子育て支援制度の情報を得たり、夕食作りを一日休んでのんびりしてもらうことができればうれしいです。また、スタッフたちと会話をすることで、息抜きや気分転換になるという声もいただいています。

多摩SDCでは、区内5か所で実施される子ども食堂の運営支援をするほか、区役所の一角で子ども食堂を運営しています。カレーの提供が基本ですが、会場によっては独自のメニューも用意されています。子どもだけ、大人



けでも気軽に子ども食堂に遊びに来てもらうことで、地域交流が生まれ、新しいつながりが広がっていくことを期待しています。

食をきっかけにして、地域のつながりが生まれる

みんなの話し相手になって
居場所を作っていきたい

大学で学んでいる栄養学の知識と、子どもが好きな気持ちの両方を生かせると思い、子ども食堂の活動に取り組んでいます。運営する多摩SDCでは、他にも様々な地域のコミュニティイベントを主催していて、日常の大学生活では関われないような人たちと一緒に、多様な取組に参加できる面白さを感じています。

子ども食堂でたくさんの子どもたちと関わる楽しさはもちろん、保護者の方々との会話の時間も充実しています。子ども食堂に何を

求めているかは人それぞれです。私たちスタッフはそのニーズをじっくり聞き、みなさんとよい時間を共有していきたいです。

多摩区ソーシャルデザインセンター
学生代表 堀川華那さん



子ども食堂を
人と人々が新しく
つながる場所に
していきたい

多摩区ソーシャルデザインセンター
事務局長 俵隆典さん

利用する人、運営する人どちらも大歓迎

毎月一回多摩区役所やデイサービス施設、カフェなど、多摩区内6か所で実施しています。食事を楽しみたい子どもや保護者、ボランティアとしてサポートしたい学生、場所を提供したいお店、どなたでも声をかけてください。また、食材提供などの寄付も募集中です。

連絡先：多摩SDC事務所(多摩区役所1階)
(平日10～16時)
☎ 044-281-4422
✉ toaiawase@tama-sdc.com



HPはこちら

【子ども・子育て】



おしゃべりサロン 「いちにのさん!」



Chatting salon



子どもや子育て世代と 地域の高齢者の接点に

これまで稲田小学校で開催していた‘子育てサロン
「いちにのさん!」’を、新たなボランティアスタッフにより、
2022年4月から「長尾老人いこいの家」で多世代交流
を目的としたおしゃべりサロンとしてリニューアルして
再開しました。

長尾地域において、小さな子どもを持つ家庭をサ
ポートできる環境をつくっていくため、まずはこのサロ
ンで、子どもや子育て世代と地域の高齢者が交流する
きっかけとなるよう開催しています。



世代を越えて楽しめる イベントで交流を深める

みなでおしゃべりをしながら気軽に集えるサロンを
開催しています。アロマオイルでのハンドマッサージや
わらべ唄の紹介、おもちゃ作りなど、親子でも楽しめる
イベントを企画して参加者をお迎えしています。



参加者のみなさんに季節
を感じてもらえるようなイベ
ントも増やしていく予定です。
このサロンを地域の方々が憩
える新しい居場所にしていき
たいです。



幅広い年齢の人たちが 集う憩いの場

子どもや子育て世代の交流だけでなく、子育てサロ
ンを運営するボランティアスタッフ、そして人生の先輩であ
るいこいの家の利用者さんたちが、気軽に集まり、会話
ができる場が「いちにのさん!」です。多世代だからこそ

誰もが気軽に集える、憩いの場を目指して

得られる情報、話題を楽しんでもらえたらと思っています。

ボランティアスタッフには学生や定年退職された方の
ほか、元保育士や子育て経験を持つ方などが参加して
いるので、子育ての悩み、つらさ、孤独感なども共感で
きだと思います。子どもをボランティアスタッフに預けて
ちょっと一休みし、参加者同士でお話をする時間を楽
しんでいただけたらと思います。

また、子どもたちとの触れ合いは、地域に暮らす高
齢者の方々にとって元気の源です。ここに集まるみなさ
んが、それぞれにできることを持ち寄り、影響し合うこ
とで、多くの交流が生まれていくことを
願っています。



おしゃべりサロン「いちにのさん!」
ボランティアスタッフと
社協職員のみなさん

高齢者と子どもをつなぎ
多世代交流を育む
サロンです

おしゃべりサロン「いちにのさん!」に参加しませんか?

長尾老人いこいの家で毎月
一回開催。就学前の子どもと保
護者同士の交流に加え、いこ
いの家を利用している高齢者の
参加も可能です。広いホールで
おしゃべりをしたり、イベントに
参加したり、のびのび過ごせる環境を用意しています。
ボランティアスタッフ希望の方もお問い合わせください。



開催日時：原則毎月第4水曜日
午前10時～11時30分
連絡先：川崎市多摩区社会福祉協議会
☎ 044-935-5500



HPはこちら

長尾地区にはこちらのサロンもあります

長尾親と子のひろば

開催日 毎月第3水曜日(8月は休み)
場 所 長尾子ども文化センター
対 象 1歳6か月までのお子さんと保護者

自由なおしゃべり、友達作り、手遊び、
保健師による育児相談などをおこなっています。
気軽にご参加ください(予約制)。

連絡先：多摩区役所地域支援課 ☎ 044-935-3264

たまくを知る

グラウンドゴルフ委員会



軽い運動として最適なグラウンドゴルフ

グラウンドゴルフは、最長でも1つのコースが50mという短さのため、幅広い世代が一緒に楽しめるスポーツです。

一日の練習で3000歩ほど歩くので、運動量としてもちょうど良い点が人気の理由です。皆さんホールインワンを目指し、和気あいあいと活動しています。



気軽に楽しめるグラウンドゴルフ 区内各地に仲間ができます

年に数回の大会で実力を試す

練習頻度は週に1回から、多いところでは毎日練習をしたり、練習場所も小学校の校庭を借りて練習する老人クラブなど、環境は様々ですが、練習を楽しみにしている参加者ばかりです。

多摩区の大会や市の選抜大会など、日頃の練習の成果を競う機会もあります。大会では地区外の参加者との交流もあり、同じ趣味をもつ仲間の出会いの場にもなります。

今後は、地域住民が集まるイベントで、グラウンドゴルフのゲームを企画し、多くの方に魅力を知ってもらいたいです。

グラウンドゴルフ委員会
委員長 五嶋功光さん

副委員長 本田秀士さん



多摩区 老人クラブ 連合会

多摩区には50以上の老人クラブがあり、2600名以上の会員が所属しています。各老人クラブの活動のほか、7部15の委員会で構成され、活発に活動をしています。
連絡先：多摩区老人クラブ連合会 会長 楠 ☎044-922-3537

HPはこちら



登戸新町新生会



毎日のラジオ体操で地域との関わりを深める

私たちの老人クラブでは、地域の様々な活動と関わりを持つことを大切にしています。活動の一つとして、月～土曜日の午前6時25分から登戸第2公園でラジオ体操を行っています。毎回15名程度の参加者があり、登戸新町以外の地域の方も参加しています。夏休みの期間中は子ども会と連携し、一緒に体を動かしています。



子ども会との連携で、老人クラブの活動と交流の幅が広がっています

様々な活動の中から好きな活動に参加できます

ラジオ体操の他にも月に1回、公園の清掃活動を子ども会と実施し、公園を大切に使うことを心がけています。また、踊りやコーラスなど多様な活動を行っているのので、興味のある活動に無理なく参加することができます。

登戸新町新生会にグラウンドゴルフのクラブはありませんが、登戸地区全体のクラブに所属している方もいて、環境が充実している稲田多摩川公園での練習に参加しています。

老人クラブに参加することで、活動の情報が得られるので、自分に合った活動に参加してみませんか。

登戸新町新生会
副会長 小瀧淳さん

会長 飯田静江さん





多摩区認知症キャラバン・メイト たまのわ



Conduct training

一人でも多くの人に
認知症に対する理解を
深めてもらうことで、
社会は変わっていきます。



ボランティアで 「認知症サポーター」を養成

厚生労働省では、認知症の人やその家族を見守り支援する「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指しています。川崎市でもこれまで約71,000人が「認知症サポーター養成講座」を受講しています。この講座を企画し、講師を務める人を「キャラバン・メイト」といい、区役所やキャラバン・メイトのメンバーからの推薦で養成研修を受けた方が、その役割を担っています。私たち「たまのわ」は、市内で唯一のキャラバン・メイトの市民団体として平成26年に発足しました。地域包括支援センターと連携しながら、現在40名で活動しています。小・中学校を始め、企業、区役所、町内会、自治会などからの依頼に応じて、「認知症サポーター養成講座」を実施しています。



絵本や会話を 取り入れ、分かりやすく工夫

養成講座では教材をもとに、認知症がどのような病気なのか、具体的な症状や心情を知り、接し方や心構えなどを学んでもらいます。「たまのわ」には、介護や医療などの現場での経験豊かなメンバーが多く、絵本や会話劇、体験談などを取り入れて、分かりやすいように工夫しています。受講者には認知症サポーターの証であるカードを発行しています。受講後は近所の気になる方を見守ったり、認知症の家族の話し相手になるなど、日常生活の中でできることをしていただいています。仕事上での接客や応対などに活かしているケースもあります。



認知症になっても安心して暮らせるまちへ



染矢由起子さん



望月キヨ子さん 佐藤豊彦さん



渡部純子さん



若い世代に認知症への理解が 広まっていくことが嬉しい

活動を通して、小学校での講座後「自分の祖父母が認知症になったらやさしく声をかけてあげたい」、「認知症は怖い病気ではない」、「同じことを何度聞かれても丁寧に答えてあげたい」といった感想を聞くと、とてもやりがいを感じます。すぐに役に立たなくても、認知症サポーターになり、病気を正しく理解しておくことで、今後に生かされると思います。団体でなくても、5名以上が集まって申し込んでいただければ養成講座を実施しますので、お気軽にお問い合わせください。また今後は、「たまのわ」の活動を長く継続していくために、若手のキャラバン・メイト育成にも力を入れていきたいと考えています。



認知症サポーター養成講座を 受講してみませんか？

「認知症」という言葉はよく耳にするけど、予防の仕方や具体的な症状、接し方は詳しく分からない...そんな方はまず講座を受講してみたいかな？本人や家族、地域の方々を様々な場面でずっとサポートし、地域全体で見守る、そんな地域づくりと一緒に進めていきましょう。

連絡先：多摩区役所地域支援課

地域サポート係

044-935-3431

認知症サポーターつてなに？▲





シニア読み聞かせボランティア りぷりんと・かわさき



Read aloud



健やかに豊かに 年齢を重ねるために

地域のコミュニティや社会貢献活動に積極的に参加する「アクティブシニア」層を増やそうと、平成16年に厚生労働省のモデル研究事業として、多摩区役所と東京都健康長寿医療センター研究所の共催で、同研究所の藤原佳典先生と、読み聞かせインストラクター熊谷裕紀子先生を迎え、シニアによる子どもたちへの絵本の読み聞かせを主な活動としたボランティア養成講座を数回開催しました。平成18年に任意ボランティア団体としての活動を始め、平成26年に首都圏で活動する友好団体とNPO法人を設立しました。現在はその中核団体として世代間交流を通じた地域づくり活動を展開しています。

世代間交流や読み聞かせには、地域の担い手としてのやりがい以外にも、認知機能や体力の維持への多面的効果も期待され注目が集まっております。

発足以来、「サクセスフル・エイジング～健やかに・豊かに老いる～」を目指し、シニアボランティアが社会と関わりながら、生涯学習などを通して健やかに豊かに年齢を重ねていくことを目指して活動しています。



50名以上の会員が 依頼に応じて活動

絵本の読み聞かせは当初、小学校と学童保育施設の2か所からスタートしましたが、活動が口コミで広がり、現在は区内の小・中学校、保育園を始め学童保育施設、高齢者施設など約36機関から依頼を受けて実施しています。例えば、小学校では授業の一コマに組み入れていただいていた、朝読みや中休みを利用したり、スタイルは様々です。（右上に続く）



読み聞かせを通じた社会参加で、健やかに生きる



ふれあいから生まれる 大きな感動

入会のきっかけや目的は「地域での友人づくり」、「子どもとのふれあいが楽しみ」、「新しいことへのチャレンジ」など様々です。

会員からは「中学生から感想文をもらうことが嬉しくて、モチベーションになる」、「子どもたちの元気な声、笑顔に包まれ、こちらがエネルギーをもらえる」といった話がよく聞かれます。また町なかで子どもたちから「りぷりんとさんだ!」と声をかけられ、保護者の方と挨拶を交わすことも少なくありません。さらに保育園児だった子どもが小・中学生と立派に成長していく様子も見ることができ、それが励みにもなります。



青木和子副代表

社会とつながり、
仲間をつくり、
切磋琢磨して自分たちも
成長していけることが
喜びです。



塩崎昇代表



加藤武幸副代表

りぷりんと・かわさきは、更に活動を広げ、皆さんに活動を知っていただきたいと考えています。「ぜひ読み聞かせに来て欲しい!」という団体の方は下記までご連絡ください。
読み聞かせで、絵本の楽しさと温もりを感じてみてください。
連絡先：多摩区役所地域支援課地区支援係
044-935-3294



まちプロ中野島 ポール de ウォーク



Walking with a pole



挨拶と笑顔でみんなをつなげたい

行政のモデル事業をきっかけに、世代を越え、誰もが健康で住みよい地域づくりの担い手として「まちプロ中野島」が発足しました。挨拶と笑顔でつながり合えるまちを目指す「まちプロ中野島」の活動のひとつが「ポール deウォーク」です。

現在5人のメンバーで運営し、そのうち3名はインストラクターの資格を持つなど安全に配慮した環境のもと実施しています。毎回10名ほどの参加者が集まり、健康観察の後に多摩川周辺を約1時間歩きます。参加者に喜んでもらうため、多摩区の季節を楽しめるコースを選んだり、参加者が笑顔で歩き続けられるペース配分を考えながら途中で休憩を入れたりしています。両手に専用ポールを持って歩くことで歩行が安定するのでシニアの方でも気軽に始めることができ、上半身も動かすことにより全身運動となるので、介護予防や健康づくりの効果も期待できます。無理なく自分のペースで続けられる運動として、まずは多くの方に参加していただき、魅力を知ってもらいたいと思います。



いつもの生活に
少しの運動をプラス！
参加する目的は違っても
みんな友だち

活動の様子を
魅力的に発信する
小澤さん



まちプロ中野島 ポール deウォーク
代表 篠河弘さん

魅力にはまり
インストラクターの
資格を取得した
打木さん



ポールウォーキングを通じて健康で住みよいまちにしたい

自分にできることを 生かせる場でいきいきと



退職後に楽しみにしていたのは大好きな趣味に没頭する生活でした。

試しに趣味三昧の暮らしを始めたところ、1週間もすると退屈になり、大好きな趣味でもそれだけの生活では気持ちが続かないことを実感しました。その後、病気が見つかり1年ほどの闘病経験から改めて人生を考える機会を得ました。

近所の施設にあった「デイサービスボランティア募集」の文字が目にとまり、素人でも務まるのか不安はありましたが、一歩踏み出してみると楽しさを感じ、介護に関する資格取得や傾聴などを学び、得た知識を別の活動にもいかしてみようと、活動の



はつらつと歩く篠河さん

範囲が広がっていきました。「まちプロ中野島」には発足から携わり、「ポール deウォーク」などの活動を通じて多くの方とのつながりができ、知人・友人も増え充実した生活を送れています。また、自身の健康維持にも大変役立っています。



前を向き歩きながらも交流 まちに顔見知りを増やしたい

参加目的は人それぞれですが、ただ参加して帰るだけでなく、みんな一緒に歩くことで自然に仲良くなり、地域に顔見知りの仲間ができることも目指しています。「ポール deウォーク」を通じて地域でのつながりの大切さを感じていただければと思います。

一緒に歩いてみませんか？

「ポール deウォーク」は毎月2回、第2・4火曜日に実施しています。ポールは貸出もしているので、気軽に参加できます。これまでの様子はインスタグラムでも発信中。多摩川を楽しく歩いて足腰を鍛えたい、地域に友だちを作りたい、そんなみなさんをお待ちしています。



連絡先：多摩区役所地域支援課
☎044-935-3264

「まちプロ中野島」
Instagram

管第3公園



体操で体を動かし、合唱で声を出す。
気持ちがスッキリします



体操後のおしゃべりの時間も楽しみの一つ

毎週水曜日の午前9時に集まり、体操をしています。現在は15名前後のメンバーが参加していて、「参加できるときに参加する」というのが私たちのスタイルです。

“誰かに会いたい、話をしたい”そんな気持ちで参加している人が多いので、体操が終わってからも公園に残り、おしゃべりすることが多いです。



合唱のレパートリーは90曲
歌う楽しさを感じる

私たちの活動の特徴は、体操の後にみんなで日本の童謡などを歌うことです。参加者の中に、ハーモニカが上手な方がいるので、その方の演奏に合わせて合唱を楽しんでいます。

体を動かすだけでなく、みんなでのびのびと声を出すことが認知症の予防にもつながるのではないかと考えています。

歌っている私たちに興味を持ち、立ち止まる方も多く、新たな参加者も増えています。体を動かしたい方、声を出したい方は気軽に参加してください。



管第3公園 公園体操
代表 生田朋子さん

【活動日】
毎週水曜日 午前9時～



HPIはこちら

公園体操

平成18年に開始した「多摩区みんなの公園体操」。区内32か所の公園や神社の境内などで、楽しくのびのびと30分間の体操をしています。
連絡先：多摩区役所地域支援課 ☎044-935-3294

生田2丁目公園



体操前に公園の清掃を。気持ちよく体を動かせる環境に

体操のある日は、有志が8時に集合して公園の清掃やグラウンド整備を行い、参加者が安全に気持ちよく体を動かせる環境を整えています。毎週月・木曜日の9時から体操を開始し、近所の人だけでなく、参加者に誘われた他地区の方も参加しています。

参加者の中で大病を患った人もなく、自分の健康に気を使うきっかけにもなっているのではないかと思います。



週2回の体操で、まちに暮らす一員としての役割を見つけています

生田2丁目公園
公園体操
副代表
富田訓敬さん

代表
富麻光義さん



四季の景色を子どもたちに楽しんでほしい

季節を感じられる公園にしたいという思いで、花壇の整備や四季のイベントに合わせた飾りつけなどの取組も行っています。この公園を使う子どもたちが、公園で過ごす時間を楽しんでほしい、そんな思いもあります。

自由に無理なく集まってきたので、平成20年の開始から休まず続けてこれました。新規の参加者も大歓迎です。健康維持だけでなく、地域の友人を増やす入口として、お役に立てる場でありたいです。



【活動日】
毎週月・木曜日 午前9時～



地域の緑化活動



Greening movement



ごたんだ
五反田自治会 フラワーガーデン

五反田の花壇が全国奨励賞をいただきました



「きれいですね」の
声を励みにコツコツと

生田大橋付近の五反田川に沿った70mにわたる花壇を管理しています。もとは草木が生い茂っていたこの場所を15年ほど前に自治会の環境整備・衛生部が花壇として整備したのが始まりで、私は9年前に定年退職してから初めてお手伝いするようになりました。現在は年間を通して約60種、1000輪以上の花が咲くようになりました。苗を購入することもあります。自分で種から植えて育てた花が大きく咲くと嬉しいものです。自然相手で大変なこともあります。が「きれいですね」と声をかけてもらえると励みになります。近隣の保育園や小学校との交流もあり、花植えを手伝ってもらったり、学校へ花のお話をしに行くこともあります。またダンボールコンポストによる生ごみのたい肥化にも取り組んでいます。



堀口貞二さん



仲間に加わってくださる方を
お待ちしております

今年は市の「わがまち花と緑のコンクール」で大賞をいただき、全国大会で1031件の応募の中から奨励賞をいただきました。当初は知識もなく、勉強しながら試行錯誤で取り組んできたので、受賞は素直に嬉しいです。花壇への注目度もアップしたようで最近では声をかけてくださる方も増えました。「今度手伝いを」と言ってくださる方もいるので、後継者育成も含めて、できるだけ多くの方が仲間に加わってくださることを期待しています。

「緑化活動に参加してみませんか？」

(公財)川崎市公園緑地協会HP ▼

「園芸に興味はあるけどやり方が分からない」、「身近な地域活動から参加してみたい」など、緑化活動に関心をお持ちの方は、ぜひ川崎市公園緑地協会にご相談を！花や緑に関する講座の開催やお住いの地域の緑化活動団体の紹介など、様々なサポートをしてくれます。連絡先：(公財)川崎市公園緑地協会 044-711-6631



いいむろやと
飯室谷町会 花プロジェクト



雑草が生えていた場所を
美しい花壇に

向ヶ丘遊園駅から生田緑地へ向かうメイン通り沿いの、雑草が生い茂っていたスペースをなんとかしたいという思いで、3年前から花プロジェクトの活動を始めました。「花を植えよう」というかけ声で、町会の美化活動の一環として取り組み、今では年間500輪の花が咲くようになりました。春と秋の植え替え時に10人ほどが参加し、後はできる時にできる人が草むしりなどの手入れを行っています。3年経ってようやく維持管理体制が整ってきました。多少の苦労もありますが、花が咲き誇る姿を思うと頑張ることができます。



通りをもっと花で
いっぱいになりたい

メインの第1花壇のほか、通りの向かい側には第2花壇、第3花壇もあり、更に通り沿いのゴミ集積所にもハンギングバスケットで花を飾っています。町会の活動がしっかりなされているアピールになり、ポイ捨て防止や防犯にもつながると考えています。美化と同時に、花壇を真ん中に人が集まる場所になればいいとの思いで活動していますが、手入れをしていると町内の方を始め、生田緑地に観光に訪れた方も声をかけてくれて、自然と会話が生まれています。もっともっと通りを花でいっぱいになりたい、そんな夢をもっています。



竹内紀子さん

佐伯久美さん

メイン通りの花壇がみんなのオアシスになりました

たまくを知る

中野島多摩公園管理運営協議会



過ごしやすい公園を目指した環境づくり

中野島地区にある中野島石河原公園、中野島中央公園、中野島中河原公園の管理をしています。各公園とも毎月10名前後の参加者と清掃活動や樹木の手入れを行うほか、様々な団体が公園を利用できるように利用調整等も行っています。

公園の利用者層や規模、遊具や設備が異なるので、利用者が公園で過ごしている姿を想像しながら、事故を未然に防ぐことを意識した管理をしています。



3つの公園それぞれの特徴をいかすような整備を心がけています

中野島多摩公園
管理運営協議会
副会長 奥沢邦雄さん



【活動日】

- 中野島石河原公園
毎月第1日曜日 午前8時～午前9時
- 中野島中央公園
毎月第2日曜日 午前8時～午前9時
- 中野島中河原公園
毎月第3日曜日 午前7時半～午前9時

新しい仲間や交流の機会を増やしていきたい

樹木が多い公園なので、様々な機器を導入し、草刈りや垣根、植え込みの剪定等を効率的に行うことを心掛けていますが、雑草や落ち葉の片付けに苦労しています。

今後は各公園で縁日などのイベントを企画し、他団体との交流も図りながら、新しい仲間を一人でも増やしていきたいです。



愛護活動 団体

定期的に集まり、担当する公園の清掃や花壇の維持などの管理を行い、公園を中心に人と人をつなぐ役割も担っています。ボランティア活動にご興味のある方は、ぜひご連絡ください。

連絡先：多摩区役所道路公園センター ☎044-946-0044

三田第4公園緑地愛護会



できる範囲でできることをやる

三田第4公園は、大きな木々が並び、緑豊かな公園です。子どもたちが安心して遊べるように、雑草の除去やゴミ拾い、花壇づくりにも力を入れています。

朝は犬の散歩、午前中は高齢者の憩いの場、午後になると子どもたちの遊び場となります。利用者がお互いに譲り合い、ルールを守って過ごせる公園となるように情報発信を行っていききたいです。

地域活動の一環として毎週行っている太極拳に参加しているメンバーと「みた・まちもりカフェ」に集う人を中心に愛護会の活動を行ってきました。「それぞれができる範囲でできることをやる」これが私たちのモットーです。

交流が生まれ、気持ちよく過ごしてもらえる公園を目指しています



地域の交流を深める お祭りを開催

愛護会の活動を地域の方に知っていただく



ため、今年の秋にお祭りの開催を予定しています。地域の団体と協力して、フリーマーケット、歌のパフォーマンス、竹とんぼづくり、植物観察などの企画を計画中です。このお祭りをきっかけに、新しく愛護会の仲間になってくれる方と出会えることを期待しています。住民のみなさんと過ごしやすい公園をつくっていききたいです。

三田第4公園緑地愛護会
会長 塩沢和美さん

【活動日】

毎月第1日曜日 午前7時半～





多摩区観光協会 観光ボランティア



Tourism Volunteer Guide



新たな魅力と出会う ガイドツアーを多数企画

生田緑地や多摩川などの恵まれた自然環境、そして個性豊かな文化施設を数多く有する多摩区。そんな多摩区の魅力を区内外の方々に知っていただくための取組を行っているのが多摩区観光協会です。中でも「ガイド部会」の「観光ボランティア」では、さまざまなツアーを企画してきました。

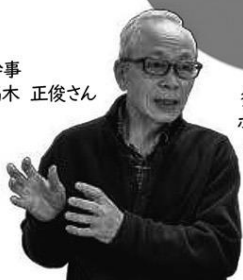
ガイドとして活動するため、養成セミナーを受けて知識を身につけたり、先輩ガイドに同行して実際にまちを歩いて情報収集を行います。また、ツアー参加者へ魅力を伝えるため専門家の講習に出向き、まちの歴史を深く学んでみたりと自分自身も新たな気づきを得る機会となっています。

多摩区の魅力的な施設、歴史ある神社仏閣、時にはドラマのロケ地などを巡ることもあります。参加者が安全に楽しめるよう、トイレや危険個所の把握のため下見も行っています。ツアーは平日に開催することが多く、毎回20名ほどの参加者に5名前後のガイドがつき、約5kmのコースを歩きます。



住み慣れた地域も
ガイドの説明を受けて
視点を変えて歩くことで
新たな魅力に出会えます

幹事
高木 正俊さん



多摩区観光
ボランティア
ガイド部会



まちの歴史を学び、魅力を伝えつなげる

定年退職後にできた自分の時間 さて、これからどうしよう？

定年退職を迎え、ようやく慌ただしい生活が落ち着き、しばらくゆったりとした日々を過ごしていました。家族と家での時間が増え、その暮らしが日常となる頃、長年暮らしてきた地域について自分自身がよく知らないことに気がきました。

「地域を知り、家族以外の誰かと会話を交わす機会を増やして社会とのつながりを持ちたい」と思い参加したツアーがきっかけとなり、ガイド活動を始めました。

複数のボランティア活動をかけ持ちしたり、興味のあることや持っている知識を生かしながら活動する仲間と一緒に自分のペースで楽しみながら続けています。楽しんで外に出ているおかげか、家族との会話も増えた気がします。



知識を生かした企画で まちへの親しみと交流を広げたい

名所や歴史だけでなく、野鳥や植物に詳しいガイドもいるので、自然に関する知識を伝えながら歩いたり、参加者アンケートの感想を取り入れた企画づくりを心がけています。

参加者と一緒に歩くことで地域を知り、運動をし、交流を広げる機会として前向きにガイド活動を楽しんでいます。

これからも、参加された方がこのまちを知り、愛着を持ていただくためのきっかけとなるような活動をしていきたいです。

一緒に多摩区の魅力を発見しませんか？

ガイドツアーへの参加をお待ちしています。下の多摩区観光協会ホームページや区役所等で配架するチラシで年間10回ほど開催しているツアー開催日をお知らせします。ツアーの情報は、市広報紙や多摩区観光協会HPをご覧ください。

連絡先：多摩区役所地域振興課内
多摩区観光協会
☎ 044-935-3132



HPはこちら

たまくを知る



戸隠不動口近くのホテルの里

生田緑地 保全・整備ボランティア



Green space conservation



農業体験（どろんこ教室）



市民に親しまれ続ける
憩いの緑地を守りたい

市内随一の規模を誇り「緑の宝庫」とされる生田緑地。四季折々の草花が豊かに咲く公園施設は、多摩区民祭などのイベントや小学生の遠足・環境学習の場として利用されています。また、岡本太郎美術館、日本民家園、かわさき宙と緑の科学館など個性豊かな文化施設があり、市内外からの来場者を迎えています。クヌギやコナラを中心とした雑木林、谷戸部の湿地、湧水などの貴重な資源が残されていることも大きな特徴です。

生田緑地は川崎市都市計画緑地決定から、2020年度に80年を迎えました。今後も誰もが気持ちよく過ごせる場所としていくため、緑地の保全と利用の調整を進めていくことが大切です。以前は雑木林の樹木を薪炭材などで活用することで日常的に樹木の入替えが行われてきましたが、時代とともに薪が使われなくなり樹高が高く太い樹木が増えてしまいました。「緑があれば自然」ではなく、先人が生活の一部として利用してきた雑木林を放置せず、現代の人々の生活に合わせて手を入れながら見守ることが大切です。

生田緑地のボランティア団体(一例)

●生田緑地の雑木林を育てる会

つつじ山、おし沼広場などを中心に植生を管理しています。



●かわさき自然調査団

生田緑地をはじめ川崎市の生物調査を行っています。また、生田緑地の保全活動や観察会のガイド等その活動は多岐に渡ります。

●とんもり谷戸の自然を守る会

雑木林保全、田んぼや畑の管理を行うほか、小中学生向けに農業体験教室も開催しています。



●日本民家園「炉端の会」



古民家の囲炉裏の火焚きや園内ガイド、各種園内行事やイベントなどにも協力しています。



この他、詳細は生田緑地HPをご覧ください。



さまざまな団体が協働して
みんなで未来を考える



生田緑地には貴重な自然環境を将来にわたって守るため、「持ち込まない、持ち出さない」というルールがあります。また、自然保護だけでなく、生態や地質学、歴史学や人との交流を生み出す仕組みなどさまざまな分野のボランティア団体により保全と利用の活動が進められています。

生田緑地に近い登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の区画整理事業により、古くからの街並みや景色が大きく変化が続ける中、新たに多摩区へ転入されて来た方も多くいらっしゃるかと思います。また、2024年には「全国都市緑化かわさきフェア」のメイン会場の一つとして、市内外から多くの来場者が見込まれます。周辺の環境が変わっても、生田緑地ではおもてなしの心を持って花と緑に親んでもらえるよう、さまざまな分野のボランティア募集を行っています。花壇の整備など1回から参加できるボランティアもありますので、地域のみなさんとのつながりを広げながら、生田緑地を大きな庭だと思って気軽に遊びに来てもらえたらと思います。

生田緑地キャラクター



みなさんの活動が
緑地を守ることに
つながっています

生田緑地共同事業体
生田緑地東ロビジーセンター
副統括責任者 越智正夫さん



気軽にボランティア体験してみませんか？

最初から特定のボランティア団体に参加するのは少しハードルが高いかもしれませんが、生田緑地で季節ごとに募集する花壇作りなどの活動から参加してみませんか。活動していく中で、自分に合った団体が見つかるかもしれません。お子さんと一緒にの参加も歓迎です。

連絡先：生田緑地整備事務所
多摩区枳形 6-26-1
☎ 044-934-8577

